

評価調書(県総合評価調書)

【評価の基準】

- (1)多様化・高度化する県民ニーズや社会経済情勢等の変化への的確な対応
- (2)厳しい財政状況を踏まえた簡素で効率的な事業展開
- (3)県の財政的、人的関与の適正化による主体的・機動的な団体運営
- (4)役職員体制の適正化による自律的かつ効率的な組織運営
- (5)積極的な情報提供の推進による団体に対する県民の理解と信頼の促進

1. 評価結果(個別観点)

観 点	評価内容	評 価
団体のあり方	当財団は、自然系博物館施設の管理・運営と島根県の自然環境・保護に関する調査研究、普及啓発活動を行う公益法人として設立された。指定管理者制度導入後も、限られたコストの中で県民の自然に対するニーズを満たす事業を精力的に展開し、引き続き公益性の高い団体として機能している。県の自然保護・啓発・環境教育分野を推進していく上で、今後も財団の果たす役割は大きい。	A
組織運営	理事会・経営委員会は適切に運営されており、活発な議論が行われている。諸規定については県に倣ったものではなく、独自で整備したものを運用しており、組織の独自性が高まっている。職員配置も的確な配置に努め、指定管理者制度の導入によるサービス向上を重視して、来場者に対するきめ細やかな対応や、企画展等の充実を図っており評価できる。 ----- 県の人的関与について 所管課長が経営委員として参画しているのみで、財団は主体的な団体運営を行っている。	A
事業実績	所管する4施設の管理事業は、県と密接な連携を取りながら適正に行われている。また、特別企画展を3回に増やし、利用者の増に努めたほか、各観察会やイベントなど、環境教育や自然保護思想の普及に関する事業も数多く行い、県民のニーズに応えている。また、これらの事業に加え、新聞への寄稿やプロジェクトチームを組んで行っているPR活動、魅力あるHPの作成などの営業効果により、県が当初予測したよりも、施設利用者数の減少カーブは緩やかなものとなっており、高く評価できる。	A
財務内容	収入の多くを指定管理料に頼るものの、財務状況は安定している。また、指定管理者制度の下、人件費をはじめとしたコスト削減の努力を続けており、運営コストは減少傾向にある。今回、退職金財源とするため基本財産取り崩しを行ったことから、自己資本比率は一時的に低下しているが、財団運営のための資金は確保できている。 ----- 県の財政的関与について もともとが三瓶自然館の管理運営を目的として県が設置した団体で、ひきつづき指定管理者となっていることから、収入が指定管理料主体であり、依存度は高い。今後、施設の管理運営業務(指定管理業務)以外の自主的な事業が広がることを期待したい。	B

評価の目安 A:良好である B:ほぼ良好である C:やや課題がある D:課題が多い

2. 総合評価

	課題の内容等	今後の方向性	評価コメント
団体の経営評価報告書における総合評価について	三瓶自然館の自然系博物館としての充実及び魅力の向上	県も設置者として、財団にまかせきりでなく、三瓶自然館の魅力向上を図るため協力していく。	現状維持ではなく、利用者の多様化するニーズに積極的に応えようとする姿勢であり高く評価できる。
	石見銀山地域や古代出雲歴史博物館等施設との連携	施設連携にあたっては、担当課と歴博や銀山の担当部署と調整を図る。	財団の方向性のとおり、県内の観光動態が大きく変化する中で、積極的な情報収集を行い、営業方法やサービスに反映させてもらいたい。
	組織体制の強化・充実	普及、展示事業など県民へのサービスに係る分野と島根の自然に関する調査研究分野がバランスよく強化されるよう、助言を行いたい。	限られたコストや人員の中で難しい面もあるが、学芸員の能力やこれまで育ててきた地域との連携を生かし、学術研究分野を充実させることが財団の事業を広げ、組織体制を強化することに繋がると思われるので、その視点を持ちつつ、創意工夫を図られることを期待する。
	今期指定管理の検証と次期指定管理に向けた取り組み	担当課において指定管理者制度の検証を行い、制度上の課題について解決を図るよう努力する。	指定管理者としての取り組みを検証し、現在の受託団体としての強みを生かして取り組んでもらいたい。

総合コメント

三瓶フィールドミュージアム財団は、人件費をはじめとした大幅なコスト削減と、利用者ニーズに応えるための努力を続けている。指定管理制度導入時に県が予測した入場者数や、財団が設定した利用料金収入目標に対して、実績はいずれも上回っており評価できる。また、県下各地の学校へ積極的に講師を派遣して、地域の自然保護活動を支援したり、三瓶地域の活性化に向けた取り組みをリードするなど、自然をキーワードとした取り組みにより地域から期待される公益法人として定着しつつある。自然に関する学芸員の知識やこれまで育ててきた地域との連携を生かし、三瓶自然館等の管理だけにとどまらない、全県的な活動がさらに広がることを期待したい。